



Designed by vectorpouch / Freepik

立教大学英語教育研究所・立教大学異文化コミュニケーション学部主催公開講演会

単語の向こうにあるもの ～語彙と文法におけるパターンを探る～

講師：Randi Reppen 氏（北アリゾナ大学教授）

日時：2019年5月18日（土）13:30～17:00

会場：立教大学池袋キャンパス 8号館 8506 教室

現実の言語使用では、語は他の語との関係性の中で使用されていることが多い。語と語の結びつきを示すコロケーション、複数の語が束のようになって使用されている複数語表現などがそのよい例である。講演では、会話、アカデミックなライティング、教科書など異なる言語使用域において、使用域が変わるとそこで使用される語同士の関係性やパターンがどのように変わるのかを詳しく見て行く。その上で、英語教育において複数語の束やコロケーションをどのように教材化すべきかについて検討する。最後に、同じようなパターンの複数語の束であっても as well as のようにどの言語使用域でも頻繁に使用されるものもあれば、使用域によってその一部を入れ替えて使われる as well as, as quickly as, as tall as, as important as などもある。このような例から、使用域と言語使用の関係性を考察し、言語教育における研究と教育との関係を具体的に論じて行く。

（予約不要、入場無料）

対 象：学生、教職員、一般

言 語：英語（通訳なし）

主 催：立教大学英語教育研究所、立教大学異文化コミュニケーション学部

連絡先：鳥飼慎一郎 Ph. D.（立教大学英語教育研究所所員）E-mail: tori@rikkyo.ac.jp

担当者：高橋里美（立教大学英語教育研究所所長、異文化コミュニケーション学部教授）